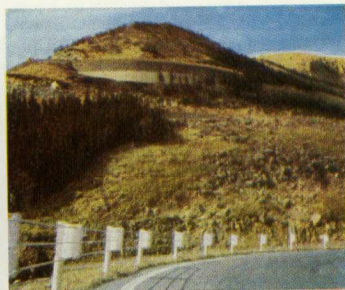


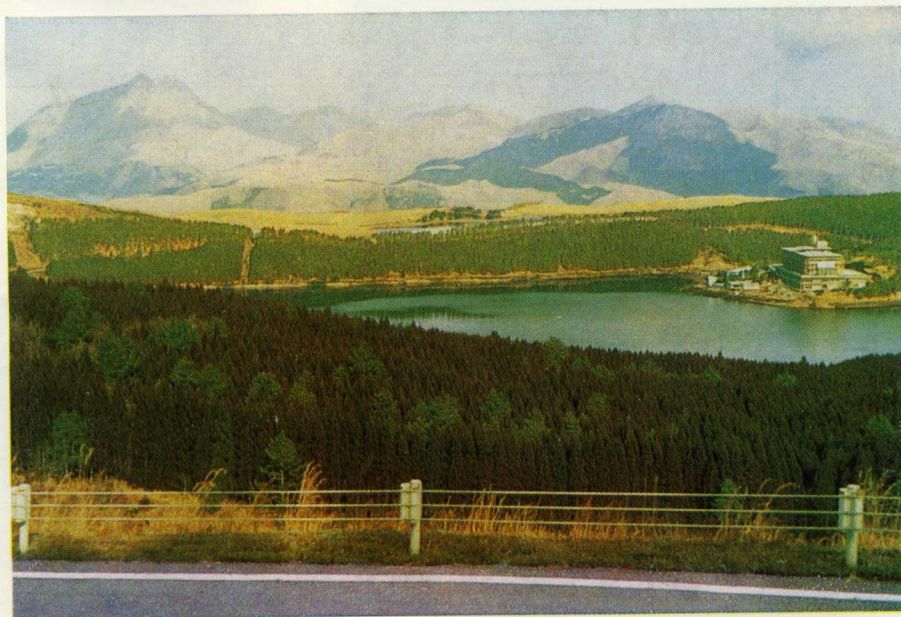
春を待つ 山なみハイ ウェイ



九州特産の高山植物ミヤマキリシマは、大船山を中心とする5 000 haに自生しており、天然記念物に指定されている。このミヤマキリシマの花は、5月中旬より6月中旬にかけて標高1 000mぐらいの中腹から順次1 700mの頂上にかけて開花する。この辺一帯は昔の火口湖跡らしく、九州の尾瀬沼とも言われるほど多くの植物があり、尋ねる人々を楽しませている。



今般開通した山なみハイウェイ（九州横断道路）は、風光明媚な九州をその名のごとく横断する道路として開通と同時に大きな反響を呼び、その利用者はこれからの観光シーズンを迎えますますます増えるものと期待されている。写真一上は、小田ノ池、山下ノ池を経て別府方面を望んだもの。写真一中左は、はるかに続く瀬ノ本高原を写したものの。写真一中右は、山腹をはしる山なみハイウェイ、写真一下は、牧ノ戸峠より別府方面を望んだところである。

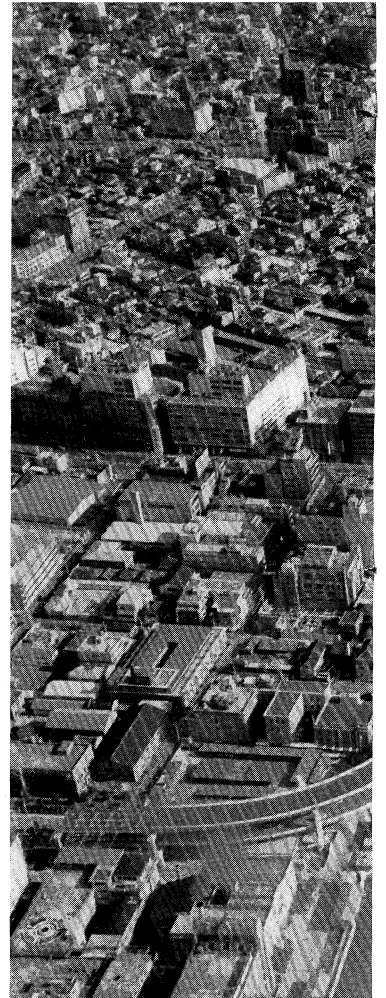


写真・土木学会西部支部 提供
撮影・土木学会西部支部

使用フィルム・コダック
6×6、中左のみ さくら35mm

テレビ塔直下を走る地下鉄

名古屋市テレビ塔は、高さ180m、地下深さ6m、構造は四角形自立式、脚部スパン35m、これに二つのRCのダイアガナルアーチ・スパン50mのものがクロスしており、自重は塔の鉄骨920tを加えて約3000tである。このタワーをささえる基礎地盤は、硬い粘土まじりの砂層で20t/m²は十分あるといわれている。現在、名古屋市交通局により工事がすすめられている南北線・市役所前～金山橋は、ちょうどこの工事がテレビ塔の下をトンネルで抜けるという大きな問題を生んだ。市ではこの工事に関し、学識経験者による委員会をもち、施工法につき十分検討したうえ、四方の脚柱基礎付近に注入を行なったのち工事を開始した。大きな成果が期待されている。



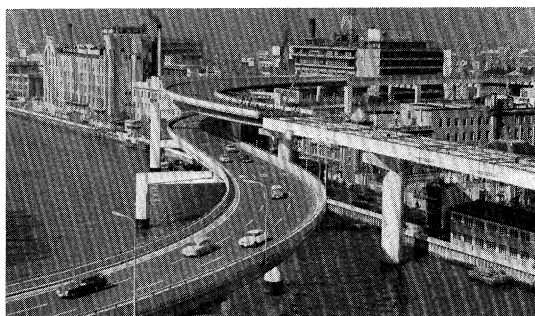
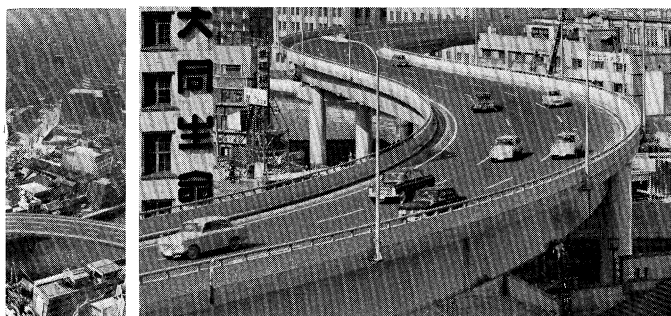
美しいS字カーブ





阪神高速道路

狭い市街地を走る高速道路は、場所の制約を受けやすい。商都大阪の中心部をはしる阪神高速道路も例外ではなく、建物と建物の間を縫い、橋脚位置にも極度の制限を受けて写真にみられるような三径間連続のS字型曲線橋がここに誕生した。スパンは $60\text{m} \times 72\text{m} \times 60\text{m}$ で、曲率半径は 80m となっている。これだけ小さな曲率半径を持つS字橋は、世界でも例が少ないといわれている。写真一下右は、下中のS字曲線橋に引続いて堂島川を渡る場所であるが、この部分は構造的には単純桁で、連続橋ではない。二階部の工事中の箇所は現在工事中で、本年12月開通予定である。写真一下左は、供用区間の北端から南を望んだところで、上の大きな写真は、S字部の上空写真である。左側が堂島川、右が土佐堀川で、中之島の手前のビルが関西電力ビルである。



写真・阪神高速道路公団 提供